

高津区市民提案型協働事業評価結果及び対応方針表

団体名	文化パートナーズかわさき
事業名	高津区のまちの記憶を次世代につなぐ
所管課	企画課
事業概要	地域の戦前戦中戦後の歴史を区民及び次世代を担う子どもたちに伝え、地域への愛着を持ってもらい、多世代が相互理解するきっかけづくりとするため、年4回、朗読劇を実施する。朗読劇には背景に写真を投影し、ハープ演奏を取り入れる。

項目別評価

評価項目	妥当	要改善	評価項目に対する主な意見
事業内容の妥当性	妥当	5人	・大きくなりとしての事業内容については妥当。具体的な内容については要検討。 ・これまでの調査内容を子どもにいかにつなげていくかというチャレンジであり、戦争を語り継ぐ活動で評価できる。
	要改善	0人	
事業の目標設定と達成度	妥当	2人	・身近なところでも戦争があったことを知ったというアンケート結果から、子どもたちに大きな気づきを促していると評価できる。
	要改善	3人	・多世代相互理解に関して、より計画的に進める工夫がほしかった。 ・具体的な目標設定の仕方や展開について不十分なところがあったのではないかと。 ・対象を子どもにするのか大人にするのか明確にした方がよかったのではないかと。
事業の効率性と費用対効果	妥当	3人	
	要改善	2人	
協働のプロセス	妥当	3人	・文化事業として戦中・戦後の人々の暮らしや思いを聞き取れることは評価できる。
	要改善	2人	・協働事業として区が関わるメリットをより具体化していくことが必要ではないかと。
協働による成果	妥当	3人	・行政が関わることで学校の授業の一環としてこの取り組みが開催されたことは大きい。
	要改善	2人	
中長期的な事業の展望	妥当	2人	・朗読劇により多くの地域の方が参加する方向の展開に期待する。
	要改善	3人	

総合評価及び所管課の対応方針

総合評価	<p>・事業名にある「高津区のまちの記憶を次世代につなぐ」に即して、事業の対象を子どもたちに絞って取り組むことで、より事業の効果が上がり、計画的に事業を実施していくことができたのではないかと考える。</p> <p>・昭和20年代の状況を子どもに伝えるという、難しい課題に対応した台本を作成し、それを用いての朗読に加え、音楽と映像の演出により、十分に子どもたちの関心を引き付けることができていることは大変評価できる。</p>
所管課の対応方針	<p>団体が本事業を継続・展開を図るにあたっては、企画段階での事業の対象等について精査を促し、対象を子どもと大人に分けて複数回開催するなど、より効果的な事業実施に向けて、必要に応じて助言等を行いながら連携してまいります。また、区役所が高津区ふるさとアーカイブ事業の魅力の効果的に区民に伝えていくために、今回協働にあたって得られたノウハウや成果物を活かしたイベントの実施等について、積極的に検討してまいります。</p>